

間違えると危険な電池の正しい分別をしっかりと理解しよう！

電池には多くの種類があり、タイプによって分別の方法が異なります。また、リサイクル可能な希少資源が使われているものや水銀などの有毒物質を含んでいるものもあります。破損することにより発煙、発火、爆発する危険もありますので、電池を正しく分別し、希少資源のリサイクルと安全な回収にご協力をお願いします。

家庭で使う電池は、図1のように大きく分けて、使い捨て乾電池などの「一次電池」と充電式の「二次電池」の2タイプがあり、それぞれに数種類の電池があります。種類ごとの正しい出し方は、図2で確認してください。特に①最後まで使い切る、②種類を確認して正しく出す、③できるだけテープなどで絶縁しておく、の3点に留意してください。絶縁しなくても回収されますが、電池の両極にテープを貼るだけでショートによる発火事故を防げるので絶縁を心がけてください。

また、プラスチック製のモバイルバッテリーは、外見が電池に見えずに、燃やすごみやプラと間違えて分別してしまうこともあるのでご注意ください。

図1：電池の種類

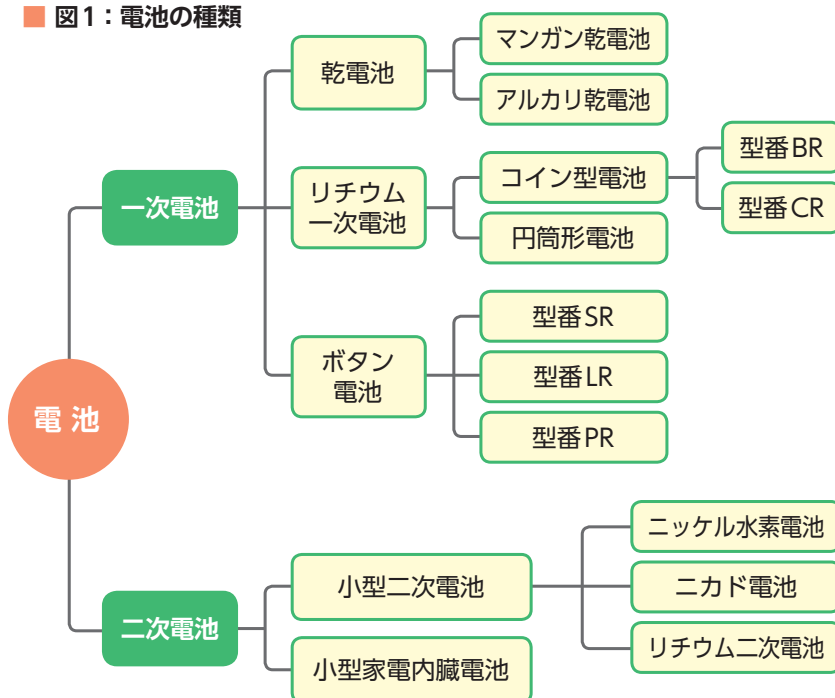


図2：主な電池の出し方

横浜市による回収 (週2回収集)	マンガン乾電池、アルカリ乾電池、 リチウム一次電池、ニッケル系一次電池、 コイン型電池 (BR、CR)
二次電池 リサイクルBOX	小型充電式電池
ボタン電池 リサイクルBOX	ボタン電池 (SR、LR、PR)

電池の発火事故



コードレス掃除機のバッテリーの発火



モバイルバッテリーの発火



古紙回収事業の環境悪化と資源集団回収の危機

現在、横浜市内の資源集団回収は、大きな課題を抱えています。それは、古紙価格の下落だけでなく、家庭からの排出量の減少、回収に係る人員の不足など、古紙回収の事業環境の悪化が進んでいるためです。そこで、現在の資源集団回収の状況についてご紹介します。

資源集団回収の現在の課題点

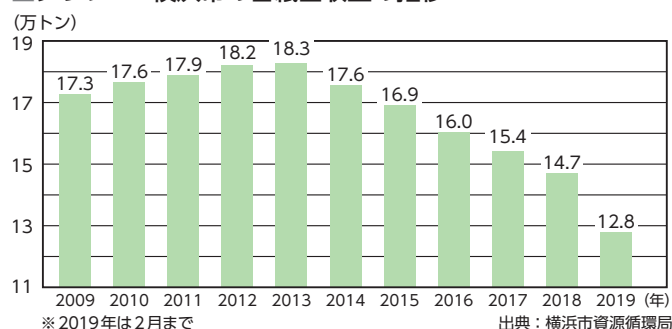
本誌でも何度かご紹介してきましたが、資源集団回収で自治会・町内会の皆さんから出される古紙の量が減少し続けています(グラフ1)。回収量が減るとリサイクル事業の経営に大きく影響を与えます。また、回収作業には人員が必要ですが、現場労働者の高齢化に加えて、募集を繰り返しても若者の応募が少なく、常に人手不足の状態にあります。

さらに、回収した古紙の取引価格も下落し続けています。理由は、最大の古紙輸出先であった中国が環境規制のために輸入を制限したことで国内の古紙が過剰となり、需給バランスが崩れてしまったためです。さらに、米中貿易摩擦の影響による国際経済の環境悪化のため、アジア諸国の古紙需要も減少し、取引価格が低迷しているのです。

古紙が集まらず、集めても売れない状況が続くと、資

源集団回収を請け負っている回収業者は、事業を続けられなくなります。すでに、資源集団回収事業から撤退する事業者も出ています。資源回収が止まらないように代替業者が回収を継続していますが、今後の見通しは厳しいと言わざるを得ないのが現状なのです。

■グラフ1：横浜市の古紙回収量の推移



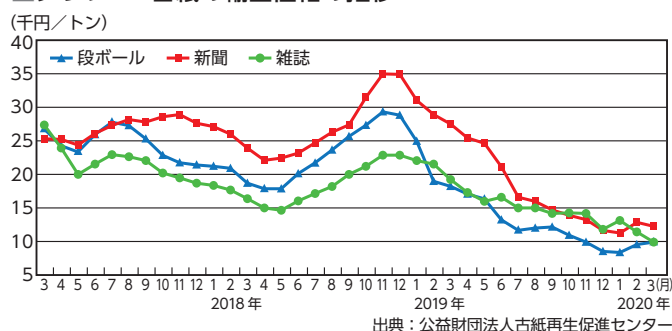
悪化する古紙取引の状況

古紙の取引価格は、古紙回収業者の経営に大きな影響を与えます。特に横浜市は、人口が約375万人と多いため、それに比例して回収される古紙の量も多くなり、取引価格の変動が回収業者の経営にダイレクトに響いてきます。そこで、古紙の取引価格の現状について少し詳しくご紹介します。

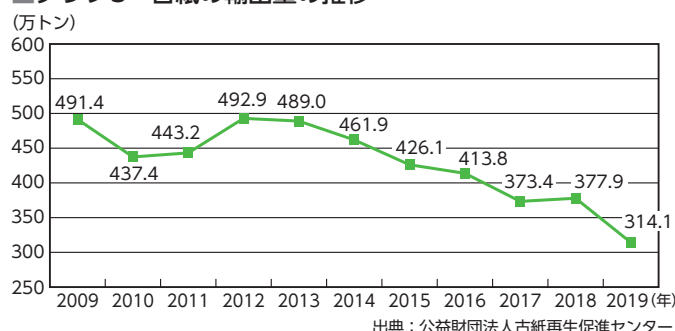
古紙の取引価格は、国内、海外の需給バランスの影響によって常に変動しています。回収された古紙の8割が国内でリサイクルされ、2割が輸出されています。グラフ2は、過去3年間の古紙輸出価格の推移です。昨年末から急激に価格が下落しており、直近ピークである2018年末に比べると1/2～1/3になっています。また、グラフ3は古紙の輸出量の推移です。こちらは、2012年をピークに年々減少を続けています。減少の理由は、中国が2013年から輸入検査を強化し、2017年に古紙の輸入規制を導入した影響です。さらに、2020年末には古紙の輸入が禁止される予定になっています。

古紙の輸出先は圧倒的に中国が多いため、中国の輸

■グラフ2：古紙の輸出価格の推移



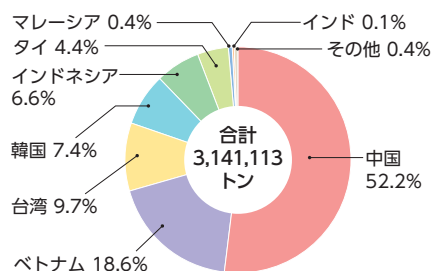
■グラフ3：古紙の輸出量の推移



入制限に大きな影響を受けます。**グラフ4**は、日本が輸出している主要国の輸出割合です。これを見るとわかるように、中国が5割を超えています。古紙は価格が安く、輸送費をかけられないため、日本の近隣国がマーケットになるのですが、今後は中国以外のアジア諸国への輸出量増加を目指す必要があるようです。

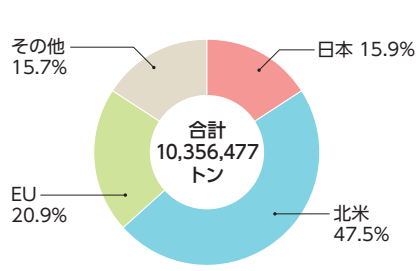
一方、中国にとって古紙の輸入先は、日本が特に突出しているわけではなく、世界各地から輸入しています。**グラフ5**は、中国の地域別古紙輸入量の割合です。北米が47.5%と半数近いものの、欧州が20.9%、日本が15.9%、その他が15.7%となっています。日本の輸出は中国が5割以上ですが、中国の輸入は日本が16%程度であり、両国間における古紙取引の影響力は微妙に違いがあるのです。

■グラフ4：古紙の主要国別輸出量の割合(2019年)



出典：公益財団法人古紙再生促進センター

■グラフ5：中国の地域別古紙輸入量の割合(2019年)



出典：公益財団法人古紙再生促進センター

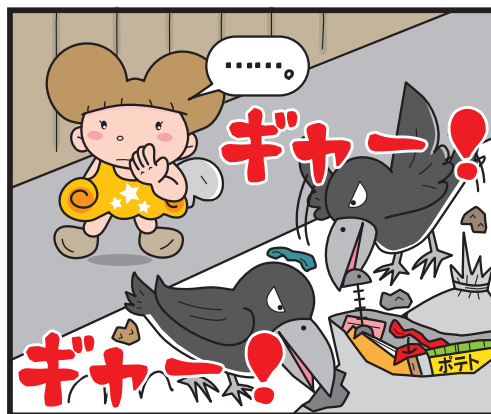
危機的な状況にある資源集団回収

事業規模を縮小する古紙回収業者が昨年から多くなっており、資源集団回収事業から撤退する事業者も出ています。このような状況が続くと、現在のような資源集団回収ができなくなる恐れも出てきました。東京都でも資源集団回収事業の危機的な状況は同じであり、東京都資源回収事業組合は、1月に集団回収事業継続の非常事態宣言を発令し、住民、行政、関係者に向けて、非常事態を乗り切るための協力を要請しています。

横浜市でも3月に、NPO法人横浜市集団回収推進部会が非常事態宣言を発令し、横浜市長に奨励金制度の見直しなど求める要望書を提出しています。この難局は、回収業者の努力だけではとても乗り越えられるものではありません。全国に例を見ないほど大規模な横浜市の集団回収事業の崩壊を防ぎ、循環型社会の実現に向けた取り組みを継続していくためには、市民の皆さまのご理解とご協力が欠かせないのです。

これからの資源集団回収

これからも資源集団回収を継続していくためには、徹底的な事業の効率化を進めていく必要があります。回収車両や人員の運用における無駄をなくし、経費を削減することで、安定的な回収を続けなければなりません。そのためには、資源物の正しい分別の徹底、回収拠点(集積場所)の整理統合、回収日・期間の見直しなど、回収効率の向上を図るために、皆さまにご協力をお願いすることも出てくるのが考えられます。これまででない厳しい状況をなんとか皆さまと一緒に乗り越えていきましょう。



環境絵日記展 2020 (仮称) 中止のお知らせ

今年も開催に向けて準備を進めておりました「環境絵日記展 2020 (仮称)」ですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止により学校が臨時休業をしていた状況から、環境絵日記そのものの取組みが困難な状況を鑑み、誠に勝手ながら開催を中止させていただくこととなりました。

また、それに伴い、「環境絵日記」市民選考員の募集につきましても見送りとさせていただきます。例年、ご参加いただいております市民の皆さまには、これからも「環境絵日記」への変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



リサイクル組合の「再生品」が販売を再開！

長らく皆さまにご愛用いただいた「りくみのトレペ」「りくみのティッシュ」ですが、製造工場の都合により生産ができなくなり、2020年1月の在庫完売をもって、販売を終了いたしました。それ以降、リサイクル組合の再生品の販売を中止していましたが、このたび新商品が決定し、2020年4月から販売を再開することができました。

従来の「りくみのトレペ」、「りくみのティッシュ」と同様に、新製品もご愛用をお願いいたします。

トイレトーパー 「業務用ワンタッチコアレス」

従来の「りくみのトレペ」と同じシングル130mのボリュームで、1ケースの個数は12ロール増量した60ロール入りになっています。横浜市内で集められた古紙を原料に作られた再生紙100%地産地消のリサイクル製品です。品質も従来と変わらないふんわりとした触り心地を実現しました。芯なしのため、最後はそのままトイレに流すことができ、エコなトイレトーパーです。



1ケース 4,980円 (1包6ロール入り×10・60ロール)

個人での利用、イベントでの配布、災害時の備蓄など、使用方法はさまざまあります。ぜひこの機会に環境に優しいリサイクル組合が自信を持って推薦する「再生品」をご利用ください。

ティッシュペーパー 「コアレックスティッシュ」

外装が従来の紙箱からフィルム包装となりました。そのため、コンパクトで持ち運びやすく、水回りでも安心して置くことができます。資源回収された牛乳パックからリサイクルされた製品で、1パック200組のティッシュペーパーが1ケースに60パック入った大容量になっています。品質はしっとりとした手触りで、表面もしっかりと目が詰まっています。



1ケース 5,480円 (1包6パック入り×10・60パック)

■ご注文・お問い合わせ

横浜市資源リサイクル事業協同組合 事務局

TEL：045-444-2531 E-mail：mail@recycledesign.or.jp

リサイクルデザインのバックナンバーは、ホームページからご覧いただけます。

<http://www.recycledesign.or.jp/rd/>

スマホ、タブレットなどはこちらのQRコードからアクセスできます。

